

# 第1章 自主防災組織とは

## 1-1. 自主防災組織の活動の必要性

### ～隣近所のつながりの大切さ～

ひとたび災害が発生すると、個人や家族の力だけでは限界があり、災害発生時に地域全体として有効な対処ができるとはいえません。災害による被害を最小限に食い止め、私たちの生命と財産を守っていくためには、地域住民自らが、平常時からの防災活動に加えて、災害対応の初期段階で適切な減災活動を行うことが不可欠となります。

そのためには「自分たちの地域は自分たちで守る」という地域住民の自主防災意識と連帯感に基づいて、日頃から地域防災活動に取り組むことが非常に重要です。

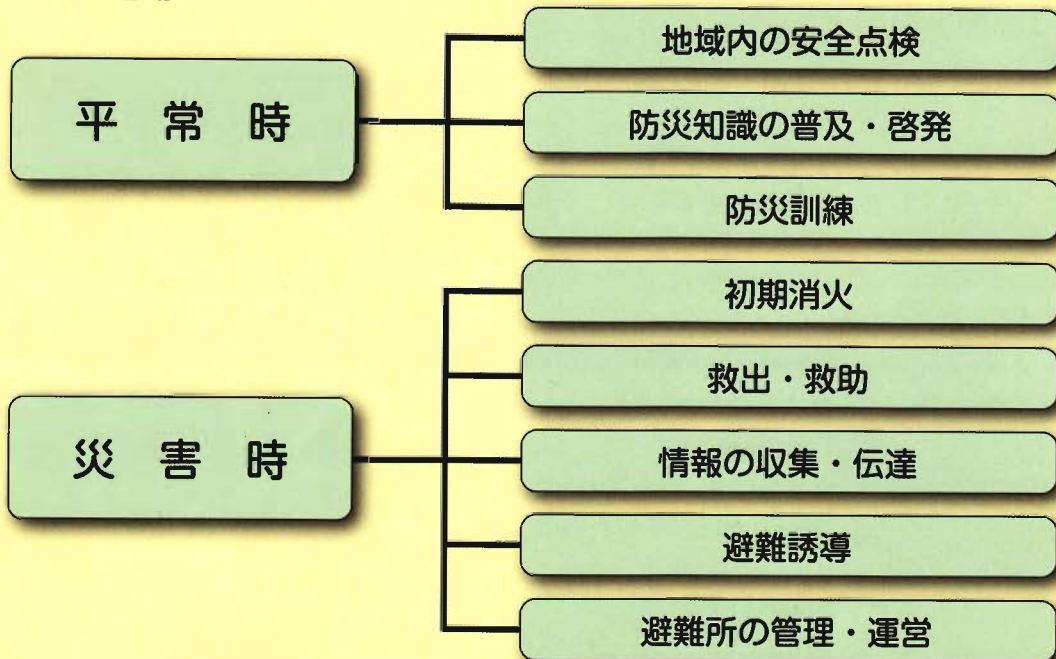


### ① 自主防災組織の役割

自主防災組織は、大規模な災害に備え、地域住民が的確に行動し被害を最小限にするため、日頃から地域住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施などを行うとともに、実際に地震などの災害が発生した際には、初期消火活動、被災者の救出・救助、情報の収集・伝達や避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

堺市では、校区単位で自主防災組織を結成していますが、校区単位の活動を基本として、その下部組織である単位自治会での活動も非常に重要になってきます。校区と単位自治会が組織内で連携を取ることによって、自主防災組織活動がより有効なものになります。

### 自主防災組織の活動





### 【参考事例】

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、道路・鉄道・電気・ガス等といったライフラインの崩壊や職員自身の被災から、発災直後は行政や防災関係機関の活動が十分に機能しませんでした。その一方で、隣近所の多くの人が協力し合い、救助活動に参加して尊い命を守った事例や、初期消火活動により延焼を防止した事例などが多く報告されています。

また、地域住民による救助活動等において、ひとりの指導者が住民を適切に指導し消火活動を行った結果、延焼をくい止めた事例も報告されていることから、リーダーの役割は非常に重要なものといえます。



### ②リーダーの役割

自主防災組織の活動を担うリーダーは、次の事項を中心に日頃から住民の防災意識を高めることに努めます。

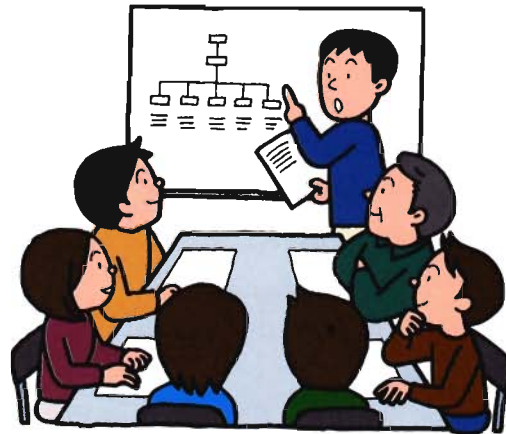


#### 【平常時】

- ・ 防災に関する基本的な知識や技術を身につける
- ・ 住民に対する防災知識の普及
- ・ 防災資器材の操作訓練や整備
- ・ 危険が予想される箇所や自力で避難することが困難な災害時要援護者の把握
- ・ 防災訓練の指導などを行い、住民の防災意識向上のための啓発を行う

#### 【災害発生時】

- ・ 平常時の活動を基本に、自主防災組織を適切に指導し、率先して行動する



#### 【堺市自主防災組織アンケート結果】

95%の組織が

**「自主防災活動を行う上でリーダーの存在は重要だ」**

と回答しています。







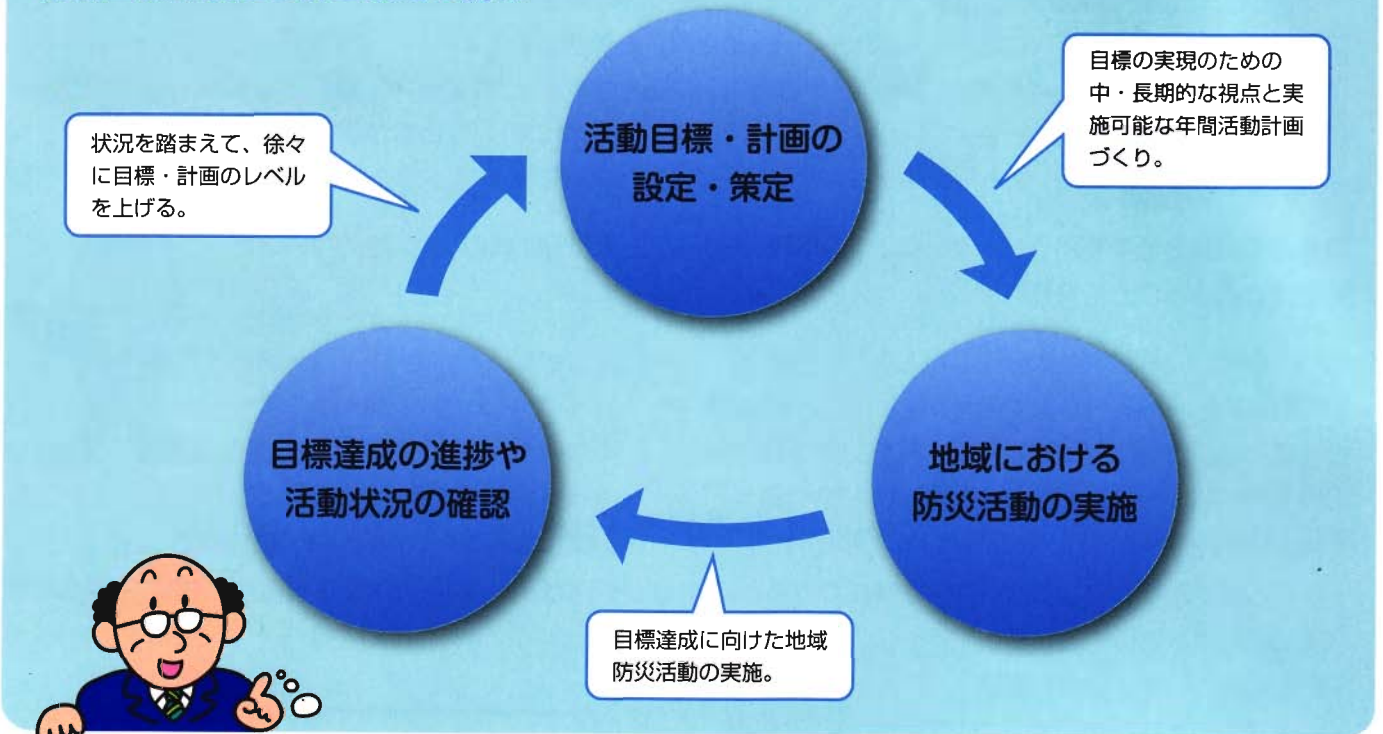
## 1-2. 自主防災組織の活動計画と組織編成

### ① 活動目標の設定と計画の策定

災害時に効果的に機能する組織作りを進めて行くためには、中・長期的な活動目標を設定し、目標達成に向けた年間の活動計画を立て、継続して取り組むことは非常に重要です。また、こうした活動目標を

掲げ、計画に沿った組織活動を進めることによって、構成員の意欲が高まり、地域防災力をさらに向上させることができます。

#### 活動目標の設定と計画策定の流れ



#### 「活動目標」「中・長期行動計画」(例)

##### 【活動目標】

- 1 年 目：家庭内対策の徹底
- 2 年 目：各班の行動の明確化
- 3 年 目：防災資器材の充実

##### 【中・長期行動計画】

- 1 年 目：家庭内対策の徹底
- 4～6月：家具の固定等のアンケート
- 7～8月：家庭内対策の講習会の実施
- 9～1月：家庭内防災対策の状況チェック

#### 「年間計画」(例)

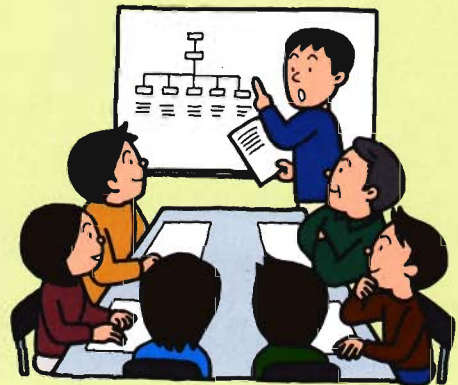
- 4 月 家具の固定等アンケート内容検討
- 5 月 家具の固定等アンケート実施
- 6 月 アンケート結果まとめ、周知
- 7 月 班単位の検討会、班単位の課題の研究
- 8 月 家庭内対策講習、総合防災訓練打ち合わせ
- 9 月 総合防災訓練
- 12月 地域防災訓練
- 1 月 防災講演会
- 2 月 図上訓練の実施打ち合わせ
- 3 月 図上訓練



## □活動計画策定の流れと留意点

### 班別（次ページ参照）に計画を検討

できるだけ多くのメンバーが参加し、意見を出し合い、各班別で検討を行うようにする。各部門別の検討を行うことで、活動の漏れをチェックすることができる。



### 優先順位をつけて検討

各班別の意見をテーマ別に整理し、項目別に優先順位をつけていく。その際、緊急性、重要性、実現可能性などの基準を立てて検討すると議論が進めやすい。



### 時間や予算を加味して計画作成

テーマ別に整理されたものを、組織の現況を考慮しながら、時間的制約、予算などの要素を加味して、活動計画を作成していく。



### 年間重点項目の決定

年間活動計画に特徴をもたせるために、その年ごとの重点項目（目玉事業）を決めると成果がわかりやすくてよい。





②組織の編成例

自主防災組織は、基本的に会長・副会長等を中心として、概ね次の組織編成例のような役割別の班編成とします。訓練を通じて必要な見直しを行いながら、地域の実態に応じた機能的な組織体制をつくりましょう。

地域の特色や状況により班編成を行い、メンバーそれぞれの適正や能力を考えて所属の部門を決めることが、後の活動をスムーズにします。また、各班のいずれも男女混合でメンバーを構成することで、

幅広い要請への対応や、実効性の高い啓発、対策、訓練が出来るようになります。

災害時には、臨機応変に弾力的な運用や指揮命令ができるよう体制を整えておきましょう。

【堺市自主防災組織アンケート結果】

66%の組織が

「班編成を行っている」

と回答しています。



□組織編成（例）

班名	平常時	災害時
総務班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織の運営</li> <li>・各活動班との連絡調整</li> <li>・関係機関や他の組織との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織本部運営</li> <li>・各活動班への連絡調整</li> <li>・関係機関や他の組織との連携</li> </ul>
情報班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、その他災害に関する情報の収集、伝達方法の確立</li> <li>・講習会等の開催、防災啓発チラシ等の作成・配布</li> <li>・防災訓練の企画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災情報の伝達、デマ防止</li> <li>・迅速且つ正確な情報を住民に提供し、混乱を防ぐ</li> <li>・避難勧告・指示等の伝達</li> <li>・被害状況の迅速かつ正確な把握と防災機関への連絡</li> </ul>
消火班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭に消火器、バケツ等消火器材の整備の啓発</li> <li>・消火器使用方法、バケツリレー等による消火活動の訓練や指導</li> <li>・電気、ガス器具等の正しい使い方についての指導</li> <li>・地域内の消火施設（消火栓、防火水槽等）について把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭へ出火防止処置を伝達</li> <li>・火災発生の場合、消防機関へ通報し、初期消火を実施</li> </ul>
救出援護班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負傷者の救出に必要な器具の調節、技術の修得</li> <li>・講習会等を開催し、各家庭における応急処置法や救急薬品の備えつけについて指導する</li> <li>・医薬品等の整備</li> <li>・医療機関等との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救出活動の実施</li> <li>・防災関係機関に被災状況を通報し、応援を要請</li> <li>・けが人に応急処置をし、病院等へ搬送</li> </ul>
要援護者班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者の把握</li> <li>・要援護者支援体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難状況や未確認者の確認</li> <li>・避難所での支援体制づくり</li> </ul>

班名	平常時	災害時
避難誘導班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者班と連携し、支援を必要とする方（高齢者、障害者等）の状況把握に努める</li> <li>・避難時の心得の周知</li> <li>・避難場所や避難路を住民に周知</li> <li>・一時避難場所の周知</li> <li>・地域内の危険場所等の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の安否を確認</li> <li>・避難勧告・指示等に応じ、集団で避難</li> <li>・避難所では、初期の運営体制づくりに努力</li> </ul>
給食給水班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水・食料等の備蓄について住民に周知</li> <li>・災害時における給食、給水計画の立案</li> <li>・炊き出し器具等の調整、点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者に対し必要な物資等を配達・配分する</li> <li>・食料の炊き出し、飲料水の調達・配分を実施</li> <li>・支給された救援物資を受入れ、配分</li> </ul>



(例)

自主防災組織 活動班
総務班
情報班
消火班
救出救護班
要援護者班
避難誘導班
給食給水班
外部からのボランティアや避難者からの新規選出により編成（総務班内に編成も可）



避難所運営委員会 活動班
総務班
情報広報班
物資・施設管理班
衛生班
救護・要援護者班
被災者管理班
食料・炊出し班
ボランティア班
（あるいは何でも相談窓口）